

創造都市推進ビジョン策定後の取組状況について(交流空間)

取組イメージ

項目	詳細
A 公共空間における快適な交流	<p>a 都市の魅力を再発見する「ウォーキング、ジョギング、サイクリングなど回遊したくなる高松」の推進 (高松駅からまちなかへつながる観光ルートの開発など)</p> <p>b 公共空間のさらなる活用</p> <p>c 空き家や廃校等の活用</p> <p>d 道路を活用した交流イベント (カーフリーデー⁵やオープンカフェ⁶など)</p> <p>e 商店街の賑わい促進 (サヌキロックコロシウム、キャラ☆フェスなど)</p>
B まちなかと海園の回遊	<p>a 親しみやすい水辺空間の整備</p> <p>b 海から見たまち、女木島・男木島・大島の魅力発信</p>
C まちなかと田園の回遊	<p>a 田園とまちなかをつなぐ「スマートサイクル⁷」の推進 (コミュニティサイクルポートの整備)</p> <p>b 公共交通システムの充実による回遊性の向上</p>

	No	事業名	実施年度	活用した取組イメージ	ビジョン策定からこれまで(H27年度まで)の成果	今後の取組み(H28年度以降)	各課の評価	担当課
交流空間	1	創造支援センター運営事業	OH24～	A-c	H24から入居していた6社については、3年間の期間満了ですべて卒業し、高松市内で引き続き活動を続けている。H27年度から新規創業者が入居している。	平成27年10月に認定された創業支援事業計画もふまえながら、継続していく。場合によっては、部屋の大きさを見直す必要がある。	□継続	産業振興課
	2	まちなかパフォーマンス事業	OH22～	A-e	四番丁スクエア・商店街・サンポート高松等において、高松ミュージックブルーフェス2015(5/4～5)、フラストリート(8/22)、街クラシックin高松(9/19～23.26.27)、高松大道芸フェス(10/10～11)、オータムジャム(10/24)の計5事業を実施し、全事業が前年度実績値より多い観覧者数となった。	「アート・シティ高松」の実現と中心市街地のにぎわいづくりのため、事業を継続実施する。	□継続	文化芸術振興課

交流空間	3	街なか居住事業 実施主体：株式会社高松南部3町商店街プロジェクト	OH27～	A-e	3町プロジェクトが、香川大学、不動産コンサルタントの専門家の意見を聞き、事業スキームの検討を行ってきたが、事業着手には至らなかった。	常磐町商店街にある空き物件をリノベーションし、若者の交流施設として利活用することで、まちづくりの活動の主役となる若者を発掘し、商店街コミュニティの新たな担い手の育成につなげる。	□継続	(産業振興課)
	4	屋島活性化推進事業	OH25～	A-a	著名人をイメージキャラクターに起用した魅力発信や屋島キャッチフレーズ・シンボルマークの公募・選定などの屋島活性化キャンペーンを始め、屋島関係情報ポータルサイト「屋島ナビ」の開設、パンフレット・マップの作成、芝生公園・多目的広場の整備及び維持・管理の実施、また、屋島山上拠点施設整備等検討懇談会や魅力ある屋島再生協議会の開催などにより、屋島の特性や価値に対する市民の認識が高まり、屋島活性化に向けた機運が向上した。	屋島を高松市のシンボルとして再生し、本市の観光を振興させ、交流人口の増加や産業振興につなげていく。(屋島拠点施設整備は施設係が、魅力ある屋島再生協議会は政策課が担当する。)	□継続	観光交流課
	5	古代山城屋嶋城跡城門遺構整備事業	OH19～	A-a	屋嶋城跡城門遺構の石垣復元整備及び環境整備工事を、平成28年3月の完成を目指して実施し、完成後一般に公開した。	整備後の遺構の保存管理に努めるとともに、埋蔵文化財公開活用事業の中で屋嶋城跡をはじめ史跡天然記念物屋島の活用に必要な事業を継続する。	27年度終了	文化財課
	6	史跡・天然記念物屋島活用事業	OH23～	A-a	屋嶋城跡城門遺構整備事業が終了し、城門遺構の完成記念式典の開催とともに一般公開を開始した。あわせて屋嶋城跡のガイドやCGで復元した城門を体感できるARアプリを製作した。	28年度からは埋蔵文化財公開活用事業として、史跡天然記念物屋島をはじめ市内の埋蔵文化財の活用を図ることとしており、28年度はARアプリの本格運用と新たなコンテンツの付加によって城門遺構及び屋島全域の誘客の増加とリピーターの拡大に努める。	□継続	文化財課
	7	高松城跡等整備事業	OH10～	A-a	平成26年度に地久櫓台石垣の積直し工事と西門料金所横のトイレ改修、桜御門西半石垣解体工事を実施し、27年度には桜御門東半石垣解体工事を実施した。この際、修理後の桜御門石垣の再利用石材の強度を診断する必要から石垣強度試験を実施した。また、玉藻公園内の防災設備の改修工事に着手した。	平成28年度以降、桜御門石垣積み直し工事や桜御門の復元工事、玉藻公園内の防災設備の改修工事等を継続して行う予定である。また、披雲閣の耐震補強など、史跡高松城跡の保存活用に必要な改修等についても検討していく。	□継続	文化財課
	8	高松城跡(玉藻公園)を活かした観光振興事業	OH25～	A-a	第2回瀬戸内国際芸術祭が開催された平成24年度から夜間ライトアップ事業、ミストシャワー事業、石あかりロード事業を実施してきた。また、平成25年度から高松城跡和船体験事業を、平成26年度から高松城鉄砲隊演武事業を実施している。 また、今年度、玉藻公園開園60周年事業を開催したほか、バーチャル高松城事業を進めており、歴史ある観光資源を活用しながら、高松のブランド価値を高めている。 平成25年度玉藻公園入園者数 182,759人 平成26年度玉藻公園入園者数 193,600人 平成27年度玉藻公園入園者数 209,789人	既存事業の改善(石あかりやBONSAI cafeをナイト観光イベントに統一)や、新規事業(彦根城姉妹都市縁組50周年事業)を通じて、観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。	□継続	観光交流課

交流空間	9	グリーン・ツーリズム推進事業	○H21～	C	高松市グリーン・ツーリズム推進協議会が主体となり、体験型グリーン・ツーリズムの活動推進、周知活動を行っている。	市内のグリーン・ツーリズム実践者に対し、高松市グリーン・ツーリズム推進協議会への加入を促進し、体験型グリーン・ツーリズムの促進を図る。	□継続	農林水産課
	10	塩江地域自立再生事業	○H25～	C	・平成25年開催のかがわ・山なみ芸術祭を塩江温泉通り活性化の一環として実施した。芸術の鑑賞と恒例の塩江ホテルまつり開催時期を挟むことでの集客で温泉通りの賑わいと塩江温泉郷の歴史や源泉の魅力がアピールできた。 ・塩江コミュニティ施設整備で実施した「しおのえ古民館」の改修(天窓整備)では、地域住民等のいこいの場としての空間ができ、寄合ができる人気施設として利用がなされている。 ・機材購入については、チップシュレッダーは森林組合が中心となり行っている竹の繁茂による山林荒廃対策での竹伐採で、竹をチップにして山に還すことで山林の環境保全に寄与している。 ・その他のイベント器材等整備についても、地域の賑わいイベントには欠かせない用品として活用がなされている。	今後は、「温泉をいかした塩江地域の観光振興事業」として、塩江温泉郷の地域資源を活かした活性化のビジョンを定める「塩江温泉郷活性化基本構想(仮称)」を策定し、塩江地域の観光振興に努める。	△改善	観光交流課
	11	ため池景観整備維持管理事業	○H3～	A-a	良好な水辺空間を創出するため、ため池景観整備により整備された施設や樹木の維持管理を行っている地元土地改良区に対し、活動支援を行うことにより、周辺住民等の利用増進が図られた。	引き続き、該当するため池を管理する土地改良区に対し、本事業を継続し、憩いの場である、ため池の水辺空間の保全を支援するとともに、利用増進を図る。	□継続	土地改良課
	12	高松市南部地域スポーツ施設(仮称)整備事業	◎H28～	C	平成27年1月より実施してしている高松市南部地域スポーツ施設(仮称)整備実施設計について、地元と協議を重ね、設計内容の一部見直しを行った。	高松市南部地域スポーツ施設(仮称)整備実施設計を策定するとともに、建設工事に着手し、早期完成を目指す。	□継続	スポーツ振興課
	13	ヨット競技場再整備事業	●H29～	B-a	平成27年8月に実施設計を策定し、平成28年2月から再整備工事に着手しており、平成29年度末のしゅん工予定。	本市のマリンスポーツの拠点として、そして、次世代を担うヨット競技選手の育成強化等を図るとともに、瀬戸内海に面し、より多くの市民が訪れていただける魅力ある施設として平成27年度に引き続き再整備工事を継続し、平成29年度末の完成を目指す。	□継続	スポーツ振興課
	14	ブリーザーズスクエア運営事業	○H21～	A-e	南部3町エリアの活動交流拠点として、高松南部3町商店街プロジェクトや瓦町FLAGなどと連携し、にぎわい創出に努めた。	H28年よりことんでん瓦町駅2階コンコースにナビステーションを開設し、海外からの訪日観光客向け対応力の強化を図り、更なる周辺拠点との連携等、にぎわいづくりや集客増加事業を継続していく。	□継続	産業振興課
	15	高松市美術館サポートショップ事業	○H24～	A-e	平成25年度からは、新たに各サポートショップに「高松市美術館サポートショップ利用者割引券」を設置し、サポートショップ利用のお客様がその割引券を美術館に持参すると特別展観覧料が割引になる相互割引制度を導入した。参加店舗数は、24年度39店、25年度53店、26年度69店、27年度119店。	事業への関心を持っていただくため、協力いただいている高松中央商店街振興組合連合会への報告を年度初めに行う予定。事業の認知度をあげるため、観光案内所等へのサポートショップマップ配布を行う。	□継続	美術館美術課

交流空間	16	屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～	OH24～	A-a	平成24年度から実施して4年目となり、毎年7月～9月(夕夜景フェスタ開催期間中)の屋島山上で地元アーティストたちを呼び、夜の屋島に賑わいを作っている。今年は、有名音楽家たちを呼び、屋島山上県木園で有料ライブを実施。約800名の観客を集めた。	7月～9月(夕夜景フェスタ開催期間中)にライブイベントを実施する。来年度以降も地元アーティストや有名音楽家たちを呼び、屋島山上の夜に賑わいを創出させる。	□継続	観光交流課
	17	高松まちかど漫遊帖	OH18～	A-a	・本実行委員会において、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」を春と秋の2回計画し、4月頃～6月頃までの期間において春編を、10月頃～12月頃までの期間において秋編を毎年開催している。 ○前年度までの進捗状況 春・秋の2回開催(2015)47コース 参加者数562人 春・秋の2回開催(2014)33コース 参加者数385人 ○本年度の進捗状況 春編について現在開催中 ・また、10周年記念事業として、平成27年11月23日(月・祝)に「高松まちかど漫遊帖10周年フォーラム」を実施し、これまでの総括及び本事業のPRを行った。	・これまでと同様に、高松市・高松市周辺で、市民が主体的に歴史・観光・産業のまちづくりや商品づくりに資することを目的として、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」の制作・運営を中心とした、まちあるき事業等の各種事業を行う。 ・また、本事業が昨年度をもって10年目を迎えたことから、運営体制等の見直しについても検討していく必要がある。	□継続	観光交流課
	18	アーティスト・イン・レジデンス事業	OH27	A-c	20団体の応募があり、選考委員会により3団体を選考し、事業を実施した。	拠点施設がない中、実施した結果を踏まえ、より本市らしいレジデンスの在り方を検討し、改善を図りながら実施を継続する。	□継続	文化芸術振興課
	19	屋島陸上競技場再整備事業	OH25～	A-b	工事前仮囲い面に小学校児童の絵画を掲示し、小学校の先生や児童の皆さんと、交流を図るとともに、また、近隣住民の方々から暖かいお声掛けなどもいただいた。また、平成25年9月に再整備工事に着手し、ほぼ計画通り工事は進捗している。	魅力あるスポーツ事業の展開やスポーツ振興のため、平成29年春の開場を目指し、円滑に工事が進捗するよう全力で取り組む。	□継続	スポーツ振興課
	20	温泉をいかした塩江地域の観光振興事業	◎H28			塩江温泉郷の地域資源を活かした活性化のビジョンを定める「塩江温泉郷活性化基本構想(仮称)」を策定し、塩江地域の観光振興に努める。	□継続	観光交流課
	21	屋島山上拠点施設整備事業	◎H28		H28年度に政策課から事務移管	H28.9を目途に基本設計を完了させ、実施設計に着手する。平成30年度中の供用開始を目指す。	□継続	観光交流課

創造都市推進ビジョン策定後の取組状況について(食)

取組イメージ

項目	詳細
A 食べることまで考えた「農のある暮らし」の推進	<p>a 自らブランド化できる新規就農者等の育成・確保や田園風景の保全を目指した耕作放棄地の把握・管理・再生等の推進</p> <p>b 作付けから収穫，調理まで一貫して体験できるプログラムの作成・実施</p>
B 生活工芸を活用した，豊かなライフスタイル ¹⁴ の実現	<p>a 食事にあわせた，器などの生活工芸品の選び方，盛りつけ方，さらにはライフスタイルまで含めた提案の取りまとめ・発信</p>
C 食を中心としたコミュニケーション空間づくりの推進	<p>a スポーツ後の懇談や，音楽のある空間での食事など，「楽しい食卓」を経験できる取組の実施</p> <p>b ビジネスにも生きがいにもつながる農産物直売所や宅配・配食サービスの実施</p>
D 地元農水産物を取り入れた，体も心も元気になる食事の在り方の研究	<p>a 高松ならではの食を通じた食育¹⁵手法の開発・普及</p> <p>b 食の仕組みの理解だけでなく，味覚を多様な感情で表現する活動の実施など，こどもの表現力・創造力の育成に向けた幅広いプログラムの開発</p>

	No	事業名	実施年度	活用した取組イメージ	ビジョン策定からこれまで(H27年度まで)の成果	今後の取組み(H28年度以降)	各課の評価	担当課
食	1	高松ブランド農産物育成支援事業	○H15～	A-a	高松市農産物ごじまん品推進協議会が主体となって、「高松産ごじまん品」のPR活動、農業体験教室、料理教室等を実施し、農産物のブランド化及び食育・地産地消を推進した。	今後も、高松市農産物ごじまん品推進協議会が主体となり、「高松産ごじまん品」のPR活動、農業体験教室、料理教室等を実施し、農産物のブランド化及び食育・地産地消を推進していく。	□継続	農林水産課
	2	さぬきマルシェinサンポート 主催 香川県・さぬきうまいもんプロジェクト実行委員会	○H23～	C-b	毎週日曜日、サンポート高松でマルシェを開催。生産者が青果物や6次産業化商品等を販売し、市民に県産食材の認知度向上と地産地消を推進した。又、高松市農産物ごじまん品推進協議会では、年2回程度の出店をしており、市内の農産物のPRを行った。	更なる事業効果とイベントの定着化を図るため、サンポートで開催される各種イベントとの連携や、情報発信の強化に取り組み、出店数の拡大と集客力の向上を目指す。	□継続	(産業振興課)
	3	市場DE自由研究事業	○H20～	D	平成27年度は庁内連携の「夏休み親子探検隊パンフレット」により、情報を知った市民から過去にないほどの応募をいただいた。	引き続き、小学生親子を対象に、市場見学を核にしたPR事業を実施する。	□継続	市場業務課

食	4	人・農地プラン推進事業	OH24～	A-a	地域内の人と農地の問題を話し合い、将来の設計図となる「人・農地プラン」の作成地区数が、25地区から31地区に増加した。	「人・農地プラン」未作成の地区に対して、プラン作成を推進していくとともに、作成済の地区については、毎年更新を推進する。	□継続	農林水産課
	5	遊休農地有効活用事業	OH21～	A-a	平成25年度から「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」により、耕作放棄地で利用可能な農地の調査を行うとともに、国の耕作放棄地再生利用緊急対策事業を利用し、平成25・26年度で7.7haを、平成27年度は0.2haを、平成21年度から延べ13.3haの荒廃農地の解消を行った。	荒廃農地調査を引き続き行うとともに、耕作放棄地再生利用緊急対策事業を活用して、荒廃農地の解消に努める。	□継続	農林水産課
	6	たかまつ市場フェスタ事業	OH19～	D	来場者層の変化に合わせて、イベント内容を検証・見直すとともに、市場関係者においても、創造性を意識し、地産地消のほか、食育・花育面にも配慮した自主的なブース運営が行われた。	引き続き、市民と卸売市場が交流する機会を確保し、開かれた活力のある市場づくりを推進するため、平成28年度以降も実施する。	□継続	市場業務課
	7	市場特別開放事業	OH22～	D	地産地消にも配慮した食材等の提供が行われ、市民に身近な施設として認識されつつある。	本事業に合わせ、公設花きの「たかまつはないちばふえすた」を同時開催し、食材の買い物だけでなく、フラワーアレンジメント教室などの体験教室を実施するなど、工夫をこらし、より身近な施設であることを来場者に感じてもらう。	□継続	市場業務課
	8	EAT BEAT ! in 高松	OH27	C	高松市の旬の食材とイベント開催時の音と映像を集音・収録し、「食」をテーマにしたプロモーションに活用。具体的な内容としては、春夏秋冬のシーズン別にイベントを実施。春開催時に収録したプロモーション映像を協賛店舗（飲食関係）で放映し、イベント参加者だけでなく、市民等にも高松市の旬の食を広める機会を創出した。	新たな方法等で高松市の「食」をPRし、観光及び産業の振興につなげていく。	△改善	観光交流課
	9	高松の食・観光魅力発信ガイドマップ制作事業	OH26、H27	D-a	平成25年度の創造都市戦略ミーティングの中の「食プロジェクト」の検討の中から平成26年度の「食・観光魅力発信ガイドマップ制作事業」が立ち上がり、夏の観光シーズンに合わせて「食・観光魅力発信ガイドマップ」を制作した。平成27年度においては、民間の団体（高松の食・観光魅力発信ガイドマップ制作委員会）が、本企画の趣旨を引き継ぎ、独自に年4回の発行を行っている。	ビジネスホテルが多いという高松市の特性を活かし、「ビジネスホテル宿泊客に商店街等で高松の食を楽しんでいただく」という流れは、観光振興や産業振興に有効な取組と考えるので、引き続き民間事業者等の協力をいただきながら、施策を展開していく。	△改善	観光交流課
	10	たかまつ食と文化のフェスタ	OH26、H27	D-a	平成27年度においては、「瀬戸内海や讃岐の旬の幸を活かした食の魅力」と「高松松平藩の築いた城下町において育まれてきた地域文化」をテーマに、訪れる県外や海外の観光客へ向けて高松の魅力発信するとともに、サンポート高松のにぎわいを創出することができた。平成26年度来場者数 45,000人、平成27年度来場者数 48,000人	今後は、「食文化を活かした観光振興事業」として、より効果的な事業を展開していく。	△改善	観光交流課
	11	アスパラ大騒ぎ 主催 アスパラ大騒ぎ実行委員会	OH25～	D	平成25年より、アスパラの収穫を祝うとともに、旬の時期のおいしさを伝え、地域の生産されるアスパラを核にして地産地消の価値や地域活性等、多様な共感を得られるイベントを実施した。	事業規模の拡大ではなく、食や地域を通じた魅力的で質の高い事業内容を実施したいと考えている。平成28年度 来場者数 約2,700人	□継続	(産業振興課)

創造都市推進ビジョン策定後の取組状況について(生活工芸)

取組イメージ

項目	詳細
A 現代生活・様式に 溶け込む新商品・ サービスの開発	<p>a 歴史文化に根付く工芸および技工の現代生活への応用・転換 (石あかり・AJI PROJECT など)</p> <p>b 低価格帯での商品の開発 (讃岐かがり手まりのストラップなど)</p>
B 高級工芸品の海外 販路開拓支援	<p>a 海外の富裕層を対象とした“ほんもの”の工芸品の販路 開拓推進 (展示会・商談会の出展支援)</p>
C 生活工芸を身近に 感じるための裾野 の拡大	<p>a 従来技工を応用した低価格帯製品・サービスの開発</p> <p>b 作り手の現場を体験できる“ほんもの”志向のツーリズム の推進</p> <p>c 親子で学ぶ料理体験実施 (調理から器の選び方までを体験できる料理教室の開催)</p> <p>d 観光客を対象とした生活工芸の紹介</p> <p>e 異なる分野(食や音楽など)を入口とした魅力の紹介 (匠のおもてなし事業・BONSAI Cafe など)</p>
D 後継者・人材の 育成	<p>a 素材の発掘から製品づくりまで全てを支援・管理できる 人材の誘致・連携</p> <p>b 販路開拓に向けた人材育成</p>
E シティプロモー ション ¹⁷ の実施	<p>a 高松の生活工芸の認知度向上に向けたプロモーション 実施</p>

No	事業名	実施年度	活用した取組イメージ	ビジョン策定からこれまで(H27年度まで)の成果	今後の取組み(H28年度以降)	各課の評価	担当課
1	瀬戸内生活工芸祭 主催：瀬戸内生活工芸準備室	OH24、H26	E-a	H26年度の開催では、丸亀町三町ドーム下で開催した三市の物産展や、県立ミュージアムでの企画展、香川県庁見学ツアーなど、他のイベントと連携し、県外からの来場者をまちなかへ誘導した。	瀬戸内生活工芸祭としてはH26年度で終了するが、想いを受け継ぎ、「これからの工芸」について考える場となる「島の学校スコレー」として、かたちを変えて続けていく予定。		産業振興課
2	BONSAI Café	OH22～	C-e	瀬戸内国際芸術祭2013の開催に合わせて始まった事業。高松城跡玉藻公園内桜の馬場や公園西門北側スペースで、盆栽を現代風に屋外展示し、苔玉づくり体験や盆栽のデモンストレーション、音楽ライブも取り入れたカフェを開催。観光客を高松城跡玉藻公園へ誘引するとともに、市民及び観光客の盆栽への関心・認知度を高めることができた。	BONSAIと食や音楽等をつなぐ空間の創出により、盆栽を自然と身近に感じたり、盆栽を愛でる空間を楽しいと体感する新しいスタイルの提案であり、さらに市内外へのPRや情報発信の産地の魅力とともに行う必要がある。 今後は、新たな「ナイト観光イベント事業」を行うことにより、高松城跡(玉藻公園)の観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。	△改善	観光交流課
3	AJI PROJECT 主催：高松市牟礼庵治商工会	OH20～	A-a	現在、受注の半分は海外であり、商品説明ができる店舗にしか商品を置かないなど、ストーリーを含めた商品の提供にこだわっており、県内外の百貨店催事や商談会等への出展のほか、各種新聞・雑誌・テレビ等でのPRを行った。	伝統工芸の現代生活への応用・転換事業として、海外への販路拡大等も実施する。	□継続	(産業振興課)
4	匠のおもてなし事業	OH24～	E	国の重要指定文化財に指定された披雲閣において、本市の特産品である盆栽・漆器・庵治石等の匠たちの技をほどこした品を展示し、地元食材を使った食を提供。作り手自らが作品等の説明やルーツを伝える場を創出することで、「ここでしか体験できない貴重な体験」を提供することができ、顧客の満足度も高かった。 平成25年度来場者数 7,082人(夏・秋開催) 平成26年度来場者数 5,103人(夏開催) 平成27年度来場者数 6,731人(夏・春開催)	特産品振興の面では、今後、市外への効果的な仕掛けとして発展させ、併せて、個々の特産品をつなぐ仕掛けとして、歴史や文化とともにPRを進めていく必要がある。 また、今後は新たな「ナイト観光イベント事業」を行うことにより、高松城跡(玉藻公園)の観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。	△改善	観光交流課
5	伝統的ものづくり企画展示セミナー	OH27～	D-a,b	平成26年3月に施行した高松市伝統的ものづくり振興条例に基づき、H27年度に事業者支援・事業環境の整備等を目的としてセミナーを実施した。	異業種間のつながりの場、伝統的ものづくりに携わる人の学びの場の創出を行い、次のアクションへとつながるような事業やネットワークの構築を目指す。	○拡大	産業振興課
6	伝統的ものづくり観光資源PR事業(仮称)	◎H28			観光客等に、地域資源をはじめとする伝統的なものづくりや文化に触れる機会を増やし、ワークショップや体験型ツアーリズム等の検討を行い、来訪者の満足度の向上を目指す。	○拡大	産業振興課
7	香川漆芸認知度向上事業	◎H28			優れた技法をもつ香川漆芸の認知度向上と若手漆芸作家支援のため、有力ギャラリー等の招聘やクラウドファンディングを活用した商品開発支援等、魅力発信とともに販路開拓を行う。	□継続	産業振興課
8	高松盆栽振興事業	◎H28	B-a		高松盆栽の輸出を推進するとともに、高松盆栽のPRを推進していく。	□継続	農林水産課

創造都市推進ビジョン策定後の取組状況について(祝祭)

取組イメージ

項目	詳細
A 地域力向上に向けた祝祭の開催	<p>a 日頃の生活や地域・集落と強く結ばれた獅子舞などに代表される“こんまい”地域の祭りや高松まつり、仏生山大名行列などのイベントの開催支援</p> <p>b 国際イベントに対する市民参加の機会提供(次世代人材の育成)</p>
B 祝祭を通じたブランディング ¹⁹ ・プロモーション	<p>a イベント・祭りの国内外への発信</p> <p>・瀬戸内国際芸術祭【アート】、瀬戸内生活工芸祭【工芸】、むれ源平石あかりロード【庵治石】、サンポート高松トライアスロン【スポーツ】、さぬき映画祭【映画】、高松国際ピアノコンクール【音楽】、瀬戸内サーカスファクトリー【演劇・舞踏】、さぬき高松まつり【祭り】など</p>

	No	事業名	実施年度	活用した取組イメージ	ビジョン策定からこれまで(H27年度まで)の成果	今後の取組み(H28年度以降)	各課の評価	担当課
祝祭	1	瀬戸内国際芸術祭	○H22、H25、◎H28	B-a	瀬戸内国際芸術祭2016は、平成28年3月20日～4月17日まで春会期が開催された。主として本市会場となった女木島、男木島、大島、高松港周辺の案内所運営を行った。	瀬戸内国際芸術祭2016は、平成28年3月20日～4月17日、7月18日～9月4日、10月8日～11月6日の108日間開催される。平成28年度は夏会期、秋会期を中心に芸術祭の成功に向け、実行委員会と連携し、主に案内所運営を行う。また、芸術祭が開催されない年は、ART SE TOUCHIとして一部作品を継続公開をする予定である。	□継続	文化芸術振興課
	2	サンポート高松トライアスロン	○H22～	B-a	サンポートエリアの海と高松市中心市街地を会場に、日本全国・世界から幅広い選手たちが参加できる日本屈指の都市型トライアスロン大会「サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～」を共催し、参加者及び市民の心と体の健康づくりを推進するとともに、本市及びサンポート高松のPRなど、活力あるまちづくりの促進を図った。 なお、平成25年度(第4回大会)からは、オリンピックディスタンスとなる51.5km(スイム1.5km、バイク40km、ラン10km)のコース並びに参加定員を500名までに拡大し、実施している。	海外を含めたメディアへの露出や、オリンピック選手が参加することによる東京オリンピックの事前合宿誘致に繋げることなどを目的として、平成29年度(第8回)から更なる大会のグレードアップを図っていく予定としている。このため、平成28年度においては、県、関係団体等と連携を図る中で、グレードアップに向けて準備を進めていく。	□継続	スポーツ振興課
	3	高松盆栽大会	○H26	B-a	平成26年10月29日～11月3日に高松盆栽大会2014を開催し、国内外の盆栽愛好家に高松盆栽をPRして知名度の向上及び販売促進を図った。(総入場者数1万6千人)	今後も、高松盆栽の知名度の向上及び販売促進を図るため、盆栽大会の開催等を検討していく。	△改善	農林水産課

祝 祭	4	高松国際ピアノコンクール	OH17、H21、H25、●H29	B-a	高松国際ピアノコンクール開催年以外の年の事業として、推進事業を実施した。平成27年度は学校訪問リサイタル、DVDの学校への配布、公共施設でのリサイタル、審査員によるマスタークラス、TIPC優勝者とファイナリストの演奏会を実施した。	平成28年度以降も推進事業を継続し、次回開催の機運を高め、より市民に親しまれ、地域に育まれるコンクールを目指す。	□継続	文化芸術振興課
	5	むれ源平石あかりロード 主催:むれ源平石あかりロード実行委員会	OH17～	B-a	牟礼・庵治地域の石産業のPRも兼ねて、石あかりのライトアップを開催(その他各種コンサート等もあり)今年で11回目を迎えた。開催日は8月8日～9月19日(75,000人)。	来年度も夏から秋にかけて開催予定。牟礼・庵治地域の石産業及び地域活性化につなげていく。	□継続	(観光交流課)
	6	さぬき高松まつり	OS41～	A-a	平成27年度には、第50回を迎え、これを記念して彦根・水戸・金沢市からも踊り子を迎え、また、花火大会においても、過去最多の12000発を打ち上げ、賑わいを創出した。 平成26年度来場者数 620,000人 平成27年度来場者数 650,000人	パンフレットの改定や、フェイスブックでも周知を行うことで、今まで以上にPRをしていく。	□継続	観光交流課
	7	高松秋のまつり仏生山大名行列	OH6～	A-a	歴代高松藩主の菩提寺である法然寺への藩主の墓参を再現した絢爛たる大名行列をメインとして実施し、主会場である高松南部地域の賑わいを創出した。 平成27年度で22回目の開催となり、これまで大名行列の殿様役には高松市長、高松ゆめ大使が扮している。 まつり期間中の観客数は、145,000人と高松を代表する秋のまつりとして定着している。	今後も高松市を代表するまつりの一つとして実施し、高松南部地域の活性化につなげていく。	□継続	観光交流課
	8	瀬戸内海国立公園指定80周年記念行事「屋島山上おもてなしイベント」	OH26	B-a	昭和9年3月に屋島を含む「瀬戸内海国立公園」がわが国最初の国立公園に指定されてから80周年を迎えたことを記念し、屋島山上集いの広場(県木園)において、瀬戸内海国立公園指定80周年記念行事キックオフセレモニーを開催した。	「瀬戸内国際芸術祭」や屋島山上の各種イベントなどの開催を通じて、瀬戸内海国立公園のブランディングを行うとともに、本市のプロモーションを展開する。	□継続	観光交流課
	9	香川ウォーターフロントフェスティバル	OH26、H27	B-a	県と共同して、サンポート高松を舞台に、平成26年度は、「ウォータースクリーン」による映像公演、27年度は、光の「クリスタル花火」や「お絵かきピープル&お遍路さん」など、芸術性の高いデジタルアートイベントの実施に加え、「真夏の夜の夢」と題し、音楽の生演奏や国内外のパフォーマーによる大道芸などのパフォーマンス、地元ならではの食の提供を行うことにより、幅広い層の観光客の誘致、宿泊を伴う滞在型観光の推進やアート・シティ高松のブランディングに努めた。 平成26年度来場者数 35,364人 平成27年度来場者数 52,011人	今後も、サンポートエリアの夜の賑わい創出をなどに取り組み、幅広い層の観光客の誘致、宿泊を伴う滞在型観光の推進やアート・シティのブランディングに努める。	△改善	観光交流課
	10	かがわ山なみ芸術祭	OH27、H28	B-a	瀬戸内国際芸術祭開催年に、香川県の山間部を舞台としたエリアの特性を活かした芸術祭で、本市は塩江町において実施される。瓦町FLAGにて平成28年4月9日～17日にプレイベントが開催され、10月29日～11月13日に芸術祭が開催される。	本市は実行委員として参加しており、今後他市の状況を踏まえ検討する。	□継続	文化芸術振興課

創造都市推進ビジョン策定後の取組状況について(国際会議)

取組イメージ

項目	詳細
A ウォーターフロントを活用した高松ならではの会議のかたちの企画・提案	<p>a 主要空港～高松, 会議場～宿泊施設など移動時間や移動手段そのものもアクティビティ²²として魅力にしていける取組の実施</p> <p>b 既存の「サンポート高松トライアスロン」や「あ・うんの数寄大茶会」などを発展させた企画の提案</p> <p>c お遍路会議・マリンスポーツ会議・晴れの日会議・うどん会議・水会議・海会議など, 新たな催しの企画・開催</p>
B 国際会議・シンポジウムの誘致	<p>a サンポート高松に集積するコンベンション関連施設の活用</p> <p>b 高松観光コンベンション・ビューローによる誘致促進の強化</p> <p>c 栗林公園や玉藻公園, 島しょ部, 塩江, 仏生山など, 高松らしさを生かせる場所での会議等の受け入れ態勢の整備</p>
C 飲食施設・宿泊施設と連携したサービスの実施	<p>a 瀬戸内海の優雅さを堪能できるサービスの実施</p>
D オプショナルツアー ²³ の実施	<p>a コンベンション参加者の帯同者(配偶者や子どもたち)も楽しめる個人型ツアーの企画・運営 (例:瀬戸内海クルーズ, 匠のおもてなし事業, 高松あじのみ物語)</p>
E 観光客へのおもてなしの心	<p>a JR高松駅など主要施設等での案内板の充実</p> <p>b 訪日外国人旅行者も安心してまちなかを回遊できる標識の多言語化</p> <p>c まちなかでのコンシェルジュサービス²⁴の実施</p>

	No	事業名	実施年度	活用した取組イメージ	ビジョン策定からこれまで(H27年度まで)の成果	今後の取組み(H28年度以降)	各課の評価	担当課
国際会議	1	第4回日仏自治体交流会議	○H26	B	会議を開催することにより、本市の魅力や国際会議を開催できる十分な施設機能と能力を有していることを国内外に発信できた。			観光交流課

国際会議	2	訪日観光客誘致事業	○H23～	B-b	訪日観光客誘致を推進するため、(公財)高松観光コンベンション・ビューローに補助金を交付し、訪日観光客誘致スタッフを配置するなど、本市の観光プロモーションを行った。 ○県内の外国人延べ宿泊者数 平成25年度43,090人 平成26年度95,830人 平成27年度 142,710人	中国・韓国・台湾・香港からの旅行者を誘致するため、引き続き本市の観光プロモーションを行うとともに、今後の観光客の増加が見込まれる東アジアや欧州について、市場調査やキャンペーンを実施する。	□継続	観光交流課
	3	アート・シティ高松推進事業	○H20～	E	本市への観光客の増加及びイメージアップを図ることを目的として、外国人観光客に向けて海外版インターネット広告「アート・シティ高松」を発信した。なお、平成26年度にサイト全面リニューアルを行い、コンテンツの追加を始め、リスティング広告からバナー広告に変更する等の改善を行った。平成27年度には、モデルコースの追加を行いサイトの充実を図った。 平成25年度閲覧数 50,475ページビュー 平成26年度閲覧数 90,366ページビュー	「瀬戸内国際芸術祭2016」の会場となる瀬戸内の島々を巡るためには、本市を滞在の拠点とすることが至便であり、芸術祭の開催に合わせ、多くの外国人観光客の入込みが見込まれることから、海外に向けて、男木島・女木島・大島はもとより市内観光地の効果的な情報発信を行う。	□継続	観光交流課
	4	ミラノ万博盆栽トップセールス事業	○H27	B	市長自らがミラノ万博日本館でトップセールス事業を実施し、海外での「高松盆栽」の認知度を向上させ、販路拡大につなげた。	ミラノ万博でのトップセールスの実施は、27年度限りであるが、国内外での販路開拓は今後も機会を捉えて実施していく。		産業振興課
	5	G7香川・高松情報通信大臣会合	◎H28	E		情報通信大臣会合開催に向けて整備している市内中心部の情報通信網を活用して、外国人観光客等の市内滞在時間の延長及び消費拡大を図るほか、開催地としてのブランド力を生かし、企業コンベンションの誘致を推進するための補助事業を実施する。	○拡大	観光交流課
	6	海外誘客促進事業	○H23～	E	香川県観光協会に補助金を交付し、県と連携して、高松空港と航空路線で結ばれている海外の都市を対象としたプロモーション活動を展開している。また、海外において本市キャンペーンを行うことにより、海外における本市のブランドイメージの定着と海外からの誘客促進を図った。 ○県内の外国人延べ宿泊者数 平成25年度 43,090人／平成26年度 95,830人 平成27年度 142,710人	今後も海外からの観光客を誘致するため、引き続き香川県と連携し、本市の観光プロモーションを行う。また、観光案内所の機能強化に対しても香川県観光協会に補助金を交付し、受入態勢の強化を図る。	□継続	観光交流課
	7	国内誘客促進事業	○H26～	E	航空会社と連携し、航空会社のHP上で高松市のPRを行ったり、空港にてPR活動を行った。また、高速道路のSAに高松市の観光パンフレットを置く等して、国内誘客を図った。	今後も国内の観光に興味を持つ、幅広い層の人々を誘致するため、公共交通機関の会社と連携し、本市の観光プロモーションを図る。	□継続	観光交流課

8	観光情報発信・受入態勢整備推進事業		E	<p>H28. 3に多言語対応のデジタルサイネージを市内5か所に設置した。また、公衆無線LAN環境(フリーWiFiエリア)をJR高松駅周辺と高松中央商店街等に整備した。その他インターネットによる情報発信の重要性に鑑み、本市の観光情報を広く発信し、来訪の促進を図るために運営している観光ホームページをH26年12月に「高松旅ネット」としてリニューアル、H27年8月に「高松みなと散歩」を閉鎖した。</p> <p>○高松旅ネットのページビュー件数 平成26年度(12月～3月) 143,436件 平成27年度(4月～3月) 618,226件</p>	<p>デジタルサイネージの運用及び公衆無線LAN環境整備については、H28年度以降も継続して実施していく。また、今後の観光政策に、両事業から得られるデータをどのように活用していくかを検討する。ホームページは、観光客増加及び満足度向上を目的として、本市のイベント情報等をできる限り早い段階で効果的な情報発信を行う。</p>	□継続	観光交流課
9	障がい者スポーツ推進事業	H28	C		<p>障がい者のスポーツ推進を図るため、平成28年度からのまちづくり戦略計画の新規事業として、本市スポーツ施設における環境整備や障がい者スポーツ大会の誘致等を通じて、障がい者のスポーツ人口の増大と競技力の向上に取り組む。</p>	□継続	スポーツ振興課

創造都市推進ビジョン策定後の取組状況について(こども)

取組イメージ

項目	詳細
A こどもの創造力を育てる取組の推進	<p>a こどもの多様な興味関心に応えることのできる環境整備の拡充(自然科学, 工芸, 音楽, 演劇, 映画, スポーツ, 食育, 芸術士の確保・育成)</p> <p>b 企業にこどもたちを呼んで職業体験してもらう「リアルキッズニア²⁸」の実施</p> <p>c 高松の文化・伝統・歴史・気候・地形などをより深く学び, 世代間や都市間の交流を深めていく仕組みづくり(小・中学校の校外活動と連携した, 地域資源を体験できる取組の強化)</p>
B 文化としてのスポーツの魅力活用	<p>a スポーツを通じてあいさつなどの礼儀作法を学んだり, あきらめない心や, 自己肯定につながる「達成感」を感じることで, こどもの可能性を引き出す取組の実施</p> <p>b 地域に複数のプロスポーツチームを有する強みを生かした, こどもたちの向上心を育むための, トップアスリートとの交流促進</p>
C こどもの遊び環境の充実や子育て支援拠点施設の整備・管理運営	<p>a こどもの個性を尊重し, よりよく伸ばしていく「寛容性」を保護者やまわりの大人・地域・社会が持ちながら見守る創造的な教育環境作りの推進</p> <p>b 自然科学などの技術・テクノロジーを体験できるプログラムの提供</p> <p>c 「こども未来館(仮称)」の充実</p> <p>d ゴミ処理施設と連携した, レミダ(イタリアで取り組まれている廃材等をリサイクルした素材を活用した芸術作品づくりの取組)の実施</p>

	No	事業名	実施年度	活用した取組イメージ	ビジョン策定からこれまで(H27年度まで)の成果	今後の取組み(H28年度以降)	各課の評価	担当課
こども	1	芸術士派遣事業	OH21～	A-a	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現活動を通して、表現の楽しさ・面白さを体験することで、子どもたちの意欲や好奇心が養われている。 ・子どもの表現活動の「過程」や「個性」を認め合うことで、子どもの自尊感情や自己肯定感が育まれている。 ・保育士等が専門性の高い芸術士とともに協働で教育保育を展開することにより、異業種間での学び合いが教育保育の質の向上に繋がっている。 	<p>今後も、芸術士を保育所等へ派遣し、それぞれの芸術分野を生かしながら、子どもが持っている感性や創造力を伸ばしていけるように導くとともに、指導方法の共有化や人材の確保に努める。</p>	□継続	こども園運営課
	2	地域密着型トップスポーツチームの活用	OH23～	B-b	<p>カマタマーレ讃岐など4つの地域密着型トップスポーツチームを活用し、学校訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待など、子ども達に直接選手等に触れ合う機会を提供することにより、子ども達の向上心や創造力の育成を図った。</p>	<p>地域密着型トップスポーツチームを活用し、引き続き、学校訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待などのほか、より一層選手との交流を深めることを目的に、新たに28年度から市民ふれあいイベントを実施する予定としている。</p> <p>今後においても、子どもたちの向上心や創造力の育成を図っていくため、県や地域密着型トップスポーツチームと連携を図りながら、様々な手段を通じ、一人でも多くの子どもたちに選手等と触れ合える機会を提供していく。</p>	□継続	スポーツ振興課
	3	ものづくりふれあい教室事業	OH12～	A-a	<p>市内の小・中学生を対象に、手作りで人の心にふれるものづくりにチャレンジしながら古き良きものを見直し、いかにもが大切かを体験する機会を提供している。</p> <p>平成26年度は18校で、洋裁部門、和裁部門、マスコット部門、手芸部門の4つの部門から7メニュー、22コースを実施した。</p> <p>平成27年度は23校で、洋裁部門、和裁部門、マスコット部門、手芸部門の4つの部門から9メニュー、29コースを実施した。</p>	<p>事業を継続し、情操教育の一環として役立つ。</p>	□継続	文化芸術振興課
	4	学校巡回芸術教室	OS54～	A-a	<p>市内の小・中学校を対象として、生の優良芸術を鑑賞又は体験する機会をつくり、児童・生徒の情操教育の一助とするとともに、健全育成に役立っている。</p> <p>平成26年度は、12メニュー20校で実施し、7,097名参加した。27年度は、11メニュー21校で実施した。</p>	<p>事業を継続し、情操教育の一環として役立つ。</p>	□継続	文化芸術振興課
	5	能楽教室事業	OH11～	A-a	<p>市内の小・中学校を対象として、生の優良な伝統芸能を鑑賞又は体験する機会をつくり、児童・生徒の情操教育の一助とするとともに、健全育成に役立っている。</p> <p>平成26年度は、能楽、囃子、狂言の3メニューを6校で実施し、2,965名参加した。27年度も同様に3メニューを6校で実施した。</p>	<p>事業を継続し、情操教育の一環として役立つ。</p>	□継続	文化芸術振興課

こども	6	伝統芸能の公演等の事業		A-c	実施していない	実施予定なし		文化芸術振興課
	7	劇団四季ミュージカル「こころの劇場」	OH22～	A-a	『瀬戸・高松広域定住自立圏(文化芸術鑑賞機会等の提供)』の事業として、平成28年2月8-10日の3日間で、高松・土庄町・小豆島町・三木町・直島町・綾川町・さぬき市より小学校73校の小学6年生と教員の5,362人(予定)を招待し、『人間になりたがった猫』の公演を実施した。	舞台劇の鑑賞をとおして、児童の情操を涵養することを目的に事業を継続実施する。	□継続	文化芸術振興課
	8	0才からのコンサート	OH26～	A-a	0歳から3歳くらいまでの子どもとその保護者(妊婦を含む)を対象に、親子で一緒に楽しめるクラシック・コンサートの鑑賞の機会を提供し、乳幼児をもつ保護者へのひとときの安らげる時間を提供するほか、乳幼児には幼い頃から音楽に触れる機会を提供し、音楽文化の創造に関心を深めることを目的に実施した。平成26年度は、年2回開催し、観客数は約463人。27年度は、年4回開催し観客数は、593人であった。	平成28年度以降も引き続きコンサートを開催する予定である。 このコンサートは、来場者アンケートでも9割の方が満足している回答をされる人気のあるコンサートであり、コンサートの申込みも定員に達するのが早いため、開催場所を工夫するなど、より多くの方に音楽に触れる機会を提供することを目指す。	□継続	文化芸術振興課
	9	伝統的ものづくり親子体験教室	OH26～	A-c	親子で地域の歴史と合わせて発達した伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。 平成26年度参加者 59組 106人 平成27年度参加者 134組 242人	親世代、子ども世代の両方をターゲットとし、伝統的ものづくりへの理解とともに内外へ発信できる人を増加させることができるよう継続して実施する。	□継続	産業振興課
	10	伝統的ものづくり学校巡回教室	OH26～	A-c	高松の歴史を伴う伝統的ものづくりに関する教育を推進し関心を深めるとともに、次代を担う子どもたちへの伝統的なものづくりへの理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。 平成26年度参加者 14校 404人 平成27年度参加者 13校 360人	高松の歴史を伴う伝統的ものづくりに関する教育を推進し関心を深めるとともに、次代を担う子どもたちの自分自身の住んでいるまちに対する、「誇り」や「愛着心」を醸成させることができるような事業となるよう、継続して実施する。	□継続	産業振興課
	11	高松市美術館リニューアル(こどもアートスペース)	OH27～	A-a	改修により「こどもアートスペース」を開設することとし、休館中はリニューアルオープンに向け、告知を兼ねた教育普及イベントを市内他施設を借り、未就学児はじめ様々な世代を対象に計6回の開催。平成28年3月末オープン後は様々なプログラム開催を予定。	「こどもアートスペース」を活用し、未就学児はじめ様々な世代等に親しまれる教育普及プログラムを展開予定。	○拡大	美術館美術課
	12	屋島子ども愛着心醸成事業	OH25～	A-c	子ども向けパンフレットを作成し、屋島に対する子どもたちへの愛着、誇りを醸成した。	市内小学生を中心に屋島に対する愛着・誇りを醸成する。	□継続	観光交流課
	13	高松夏休み親子探検隊チラシ制作事業	OH26～	A-a	各課が実施する夏休み中の親子教室等について、連携してチラシを作成し、市内全小学生に配布した。	宣伝広告の連携だけでなく、こどもの多様な興味関心に応えることのできるものになるよう、内容の充実も図りたい。(平成29年度からはこども未来館が担当する予定)	○拡大	産業振興課

創造都市推進ビジョン策定後の取組状況について(もっともっと創造的プロジェクト)

	No	事業名	実施年度	活用した取組イメージ	ビジョン策定からこれまで(H27年度まで)の成果	今後の取組み(H28年度以降)	目標の評価	担当課
もっともっと創造的プロジェクト！	1	高松メディアアート祭	○H27		平成27年12月18日～27日の10日間、玉藻公園披雲閣をメイン会場に、南部三町ドーム、常磐町商店街、瓦町FLAG8階アートステーション(多目的スタジオ)、サンポートホール高松において、子どもから大人まで楽しめる作品を世界各国から集め、展示を実施した。	実施予定なし		文化芸術振興課
	2	山間部、島しょ部でのサテライト・オフィス	●H29以降		塩江町では、光ファイバー化の整備が進んでおり、誘致の前提条件となる「誘致を受け入れる施設の確保」や「地元との調整」など、徐々に環境が整っているが、現在のところ、「サテライト・オフィス」誘致の実際の動きまでには至っていない。	小学校跡施設等の本市施設の利活用や空き家のオフィス活用の可能性等を見ながら、効果的な「サテライト・オフィス」の誘致策を検討する	□継続	産業振興課
	3	市民活動センターのクリエイティブ化	○H24～		市民活動団体等の中間支援組織として市民活動センターを開設。市民や市民活動団体等を対象に、人材育成及び団体交流事業等を実施するとともに、市民活動に生かせる各種講座を開催してきた。また、瓦町市民活動センターを開設し、団体等の活動拠点機能の拡充に取り組み、その活動やつながりを通じて、新しい発想や取組が生まれるような環境づくりに努めた。	市民活動センターを瓦町FLAGに統合(H28.4.1)し、市民活動団体等の活動拠点としての機能を強化し、市民活動団体等の育成と活性化に取り組む。 また、市民交流プラザ全体での協働事業の取組により、新たな枠組みでの団体間や人とのつながりを広げていく。	○拡大	コミュニティ推進課
	4	企業の育成・誘致による経済活性化	○H21～		本市産業の活性化や雇用拡大を図るため、企業誘致専門員を配置し、企業誘致優遇制度を活用した企業誘致に努めている。	香川県や金融機関、よろず支援拠点等との連携をさらに強化し、また、新たに導入した地方拠点強化施設助成制度や税の不均一課税も活用しながら、企業誘致を進めていく。	□継続	産業振興課